

平成 18 年 11 月 日

山形県知事 齋藤 弘 様

三沢地区産廃最終処分場周辺環境についての 詳細調査を求める要請書（案）

ネイチャーフロント米沢
代表 青柳 和良

中山峠南西部に予定されている森崎工業の産廃最終処分場開設にかかわる米沢市との協定書の締結と工事の開始が迫っていると聞き、昨年 7 月に引き続き今年 8 月 10 日に、同山地の北西斜面にあるミズゴケ湿原を視察し、簡単な調査をしました。同行者は案内を兼ねた地元関係者とネイチャーフロント米沢の会員 3 名です。

視察・調査の結果は別紙に示しました。この湿地はかなり藪化しており、決して良好な状態にあるとはいえないものの、米沢市域ではきわめて貴重な湿原であることがわかりました。特に今回は絶滅危惧種 6 種を含む希少植物を確認しましたが、この地域一帯について年間を通しもっと詳細な調査が行われれば、さらに多くの貴重動植物が見出される可能性を示しております。

現在、低地のミズゴケ湿原は全国的に激減しており、多くの湿原植物が絶滅に瀕しています。その主要な原因は開発と園芸採取にあるとされています。低地ミズゴケ湿原の主な構成種であるオオミズゴケは山形県内では未だ希少種扱いはされていませんが、全国レベルでは絶滅の可能性が最も高い絶滅危惧 I 類にランク付けされ、いくつかの県ではその採取を禁止していると承知しています。そのように貴重な低地のミズゴケ湿原をその存在から脅かす工事が調査もないままに行われて良いはずはありません。今後、産廃処分場開設のための協定書の締結や工事開始の前に、同山地一帯の湿地、湧水貯め池、森林等の動植物についての詳細調査と、地下水脈の調査が絶対に必要なものと判断されます。又上記のように同湿地が藪化した原因として、厚生社の産廃処分場の影響がなかったものかどうか、可能な範囲で検証をする必要があります。そして調査結果を公開し、地域住民や専門家の意見を取り入れながら、場合によっては産廃最終処分場計画の廃棄をも選択肢に入れた計画の見直しを求めるものです。

以上の趣旨を貴職がその責任において関係部署に周知させ、必要な処置を指示されるよう要請いたします。

視察・調査の結果

1. 湿地の所在地 : 中山峠西方、口田沢上屋敷に面する山地の北～北西斜面
標高 350m前後
2. 湿地の広がり(ミズゴケの被覆範囲) : 南北約50m 東西約80m
ただし泥炭湿地は西側にさらに広がるが、その範囲は未確認。
3. ミズゴケ+泥炭層の深さ: ランダムに 10 ポイントを選び、細い棒を差す簡易な調査結果は次のとおり(cm)
50 30 40 70 60 30 40 50 60 60 平均 約 50 cm
4. 湿地の性格 : ミズゴケ湿原(ヌマガヤ・オオミズゴケ群落)、ハンノキ林、湧水ため池など
5. 観察されたおもな植物 (順不同)
高木層 アカマツ(天然)・スギ(植栽)・・・ミズゴケ湿原辺縁部
低木層 アカマツ・イソノキ・オオコメツツジ・ケヤマハンノキ・コナラ・スギ(植)・ズミ・ノリウツギ・ハイイヌツゲ・ハンノキ・ミズナラ・ミヤマウメモドキ・ヤマウルシ・ヨシ・クマイザサ・チマキザサ・リョウブ・
草本層 アイバソウ・アリノトウグサ・オオイヌノハナヒゲ・ウメバチソウ・エゾリンドウ・カキラン*1・クサレダマ・ススキ・ゼンマイ・ヌマガヤ・ノギラン・ノハナショウブ・ヒメシロネ・ミカツキグサ・ヤマドリゼンマイ・レンゲツツジ・ワラビ
コケ層 アギスミレ・オオミズゴケ*5・モウセンゴケ・コケオトギリ・ミミカキグサ SP*2・ムラサキミミカキグサ*2・

その他周辺で観察されたおもな植物

[森林内で] オオニガナ*3、トンボソウなど

[周辺の湧水ため池] ヒルムシロ、イヌタヌキモ*4、ヒツジグサ、カンガレイ、など

注1 : *1 : 県 NT *2 : 県 VU、国 VU *3 : 県 NT、国 VU

*4 : 県 NT、国 VU *5 : 山形県には比較的多く分布するが、環境省は絶滅危惧 I 類に指定、またいくつかの県で採取を禁止している

注2 : VU : 絶滅危惧 II 類 NT : 準絶滅危惧